

令和 6 年度末 水道革新的技術実証事業評価委員会の結果について

令和 6 年度採択技術について評価結果を示す。

●令和 6 年度採択技術（FS 調査実証新規採択）

○災害時における応急浄水と応急給水の一体的運用に関する調査事業（㈱NJS・メタウォーター㈱・WOTA ㈱共同研究体）

応急浄水と応急給水の一体的運用について、応急給水、応急浄水に関わる目標と必要条件の設定、ケーススタディに基づくシステム活用検討といった検証項目に関して自治体の意見を勘案した検討がなされ、導入計画や導入効果に対して一定の成果が得られた。

一方、実装に向けては多様な水源への対応、長期間の無人運転、装置の小型化・分割ユニット化等の課題が残された。今後、各地域の実情にあった設備配置計画やマニュアル作成などの検討を引き続き行うことが期待される。

○無電力運転が可能な高度浄水装置に関する調査事業（（一財）造水促進センター・協和機電工業㈱・長崎大学共同研究体）

無電力運転が可能な高度浄水装置について、3 種類の水源（浄水場流入水、溜池水、下水処理水）を対象に、低動力運転での浸漬 NF 膜を用いた簡易装置における処理水質やろ過運転性能、浄水場流入水を対象にした無電力運転の可能性、簡易装置の設置・運用に関して検討がなされ、一定の成果が得られた。

一方、特に無電力運転に対して対応可能な水源（水質）、ろ過条件、簡易装置の保管方法等、水道事業体における普及可能性について課題が残された。今後、詳細な適用条件などの設定に向けて、これらの課題解決について引き続き検討を行うことが期待される。

○水道管更生技術の要求性能項目の基準化（芦森工業(株)・アグインテック(株)・(株)オール・管清工業(株)・(株)湘南合成樹脂製作所・大成テック(株)・中日コプロ(株)・中林建設(株)・(株)フワ共同研究体）

管更生工法について、事業体のニーズ把握、耐震性や施工性といった評価指標の設定及びそれらに求められる基準、設計方法等に関する検討がなされ、一定の成果が得られた。

一方、耐震性を評価するための評価項目に関する要求性能や基準の妥当性、設計方法として提案した計算方法の妥当性の評価等について課題が残された。今後、管更生技術における要求性能項目の基準化に向けて、これらの課題解決等の検討を引き続き行うことが期待される。